

LIVE IN TOKYO

コンサート出演者紹介

RHYTHM FOR CHANGE

BREEZE (Vocal Group) 8/12(木)出演

1993年に、ジャズボーカリスト後藤芳子の門下生5人で結成し、活動をスタート。その後メンバーチェンジを経て、2005年1月より現在のメンバーとなる。それぞれがソロシンガーとしても活動しており、4人の個性がBREEZEのサウンドに多様な色彩を加えている。レパートリーは、ジャズのスタンダードナンバーを中心にポップスや日本の楽曲まで幅広い。広い音域やキャットを活かしたアレンジによるスイング感あふれるハーモニー、そして親しみやすいステージで好評を得ている。ジャズクラブでの活動の他に、各地のジャズフェスティバルやコンサート、テレビ・ラジオ等の音楽番組出演、その他スタジオワーク等の活動も行う。また、ロサンゼルスではジャズハブニングス、そしてライブat「M」にて1998年より毎年秋レギュラー出演し、世界的に有名なサラボーン、フランクシナトラ、エラ・フィッツジェラルド、ナタリーコールなどの伴奏者でもある。ジョージ・ギヤフニー(ピアノ)、ジム・ヒューワット(ベース)、ジョン・ハード(ベース)、ロイ・マッカーティ(ドラム)、ハーマン・ライリー(サクソ)、ダグ・ウェップ(サクソ)他、数多くのミュージシャンと共演する。その他、ハワイ、サンフランシスコ、中国、韓国等でも公演し好評を得ている。ボーカルグループが数少なかった現在、最も期待されているグループである。グループ名はイラストレーター 和田誠氏によるもの。スイングジャーナル誌では 2009年度読者人気投票 ボーカルグループ部門 第3位。



佐々木 朝美(vo) 8/13(金)出演

9月4日東京に生まれる。3歳よりピアノを、5歳よりヴァイオリンに親しみクラシックの音楽教育を受ける。都立芸術高校をピアノ科で進学し、歌に魅せられ声楽科に転向。東京音楽大学卒業。同大学研究科オペラコース修了。大学在学中はフォーレ、ドビュッシーなどのフランス歌曲に傾倒。また、ダンスパフォーマンスとのコラボレーションなど、様々なパフォーマンスを経験。研究科を卒業すると同時に、小曽根真の出演していた「JAZZを君達へ」という番組を偶然観たことがきっかけでジャズに興味を持ち、ジャズヴォーカルを伊藤君子氏に師事。クラシックコンサート等での演奏を続けながら04年2月ジャズライブハウス「GateOne」レギュラー出演を皮切りにライブ活動をスタート。06年2月赤坂「B-flat」主催ジャズヴォーカルコンテストでグランプリを受賞。06年8月エジンバラフェスティバル(スコットランド)へイギリスのダンスカンパニー公演にヴォーカリストとして出演。ジャズへの想いをより強くして2ヶ月間の渡英から帰国。07年3月保谷こもろびホール主催での初のソロ・ジャズコンサートを行う。08年5月、共演者にピアニスト山本剛を迎え1stアルバム『Momo』を録音。08年9月に発表。現在は都内のジャズスポット、レストラン、イベントなどで活躍中。ただひたすらにジャズの道を邁進している。



ボサノバユニット「サラ・ナ・カーザ」 8/13(金)出演

トム・ジョビン、ジョアン・ジルベルト、カイトーノ・ベローソ……、ブラジル音楽の巨匠達の音楽を尊敬し愛するシンガー、阿部かよこを中心に集結したユニットが、サラ・ナ・カーザ。サラ・ナ・カーザとは、ポルトガル語で「リビング・ルーム」、リビングでくつろぐ様にリラックスした音楽を、という意味のグループ名です。2007年より活動開始、都内ライブハウスを中心に出演。また、毎年10月に山梨県勝沼で開催される、メルシヤンのワイン祭りにも出演しています。ベースの目下野史、ピアノの外谷東は、共にジャズプレイヤーで、インストだけでなく、歌伴のキャリアも豊富、サラ・ナ・カーザのサウンドに様々な色彩を加えています。今回、小野リサグループにも在席、ソブラジルで活躍中のパーカッション、黒田清高をゲストに迎え、より充実したブラジル音楽のサウンドを披露します。



「サラ・ナ・カーザ」阿部かよこ

加藤 泉(g) 8/13(金)出演

19才よりプロとして活動。ジャズ・ギタリストの潮見郁男氏に8年間師事。榎森康利(p)カルテット、田畑貞一(ds)カルテット、ジミー・スミス(ds)カルテットなどを経て、現在自己のリーダー・グループで都内及び全国のライブハウス、コンサートホールで活躍している。ジョージ・ギヤフニー(p)、ギルド・マホネス(p)、レイ・ビジー(as)、ハーマン・ライリー(ts)、チャールズ・オーエンス(ts)、ジョン・ハード(b)、バスター・スミス(b)、ルイス・スピアーズ(b)、トーマス・ガーガン(b)、ポール・ハンフリー(ds)、ロイ・マカーティ(ds)、ジェイムズ・ガドソン(ds)、フランク・ウィルソン(ds)、ジミー・スミス(ds)等、世界の一流ミュージシャンと共演、レコーディングを行うと共に、ギター教育にも力を注ぎ、ヤマハ音楽教室ギター科講師、イナモリメソッド研究会講師、そして自己のギター教室を開設し多くのギタリストを育てている。著書も「ジャズギター・アドリブ教本」「コンテンポラリー・ジャズギター・イントロ&エンディングの技法」等、多数。



二村希一(pf) 8/13(金)出演

1956年生れ。東京都渋谷区出身。18才の時、アン・コンテンポラリージャズスクールに入学。20才頃から演奏の仕事をはじめ。鈴木明男クインテット、宮の上貴昭カルテット、リチャード・バインバンド、遠山晃司トリオ、フランス&ソナリス、レイラコム・サウダー、加藤泉のクインテット、松井洋クインテット、ジョン・ネブチューン、ミストラダ(ブラジル音楽)竹内理美(vo)バンド、ミナスイング(ブラジル音楽)、松尾明トリオ等に参加。現在、テイクテン、伊勢秀一郎(tp)バンド、小島の子りバンド、野間瞳(vo)バンド、Sem Voce(ブラジル音楽)などでも演奏している。自分のクインテットでは「アケタの店」で18年以上演奏活動を続けている。2002年6月にこのクインテットのCDが発売された。2009年12月にトリオアルバムとしては初リーダー作の「My Favorite Tunes」をリリースした。



羽山るみ(vo) 8/13(金)出演

幼少期からピアノを習い始め音楽に触れる。10歳の頃から洋楽に興味を持ち、レコードと一緒に歌う楽しみを感じる。18歳で音楽スクールで声楽を学び、ギターを高木和来氏(g)に師事。大塚善章氏(p)のライブでボーカルに参加したのがJAZZライブの初ステージとなる。翌年、「さまよう愛」でレコードデビュー。同時期に、京都「ペラミ」のオーディションを受け、一流クラブのビッグステージを経験する。ポピュラー、ジャズ、ラテン等、ジャンルにとらわれず、ギターの弾き語りソロステージから、エルマノス三品(ラテン)清水治オールスターズ(ビッグバンド)の専属シンガーとして、京阪神ホテル、ジャズクラブを中心に、11年間、ボーカルステージを経験。その後充電期間を経て、1988年1月より、都内、大宮でのライブ活動をはじめ。ライブイベントの他、サラブレッズ(大宮)パティオの森(与野、埼玉ヨベット)に出演。新都心カルチャースクールのジャズボーカル講師を勤める。現在、大宮駅前JAZZ・BIT(ジャズボーカルスタジオ)を主宰。



井上信平(m) 8/13(金)出演

1957年生まれ。東京芸術大学付属高校卒業後、アメリカへ留学。ボストンのパークリー音楽院、ニューヨーク・マナス音楽院に学び、卒業後ニューヨークにて活動を開始。著名なジャズクラブやアメリカ各地のジャズフェスティバル、レコーディングプロジェクト等で演奏を重ね、90年カーネギーコンサート、91年全米でCDをリリースする。91年より定期的に日本に戻り、全国コンサート、ライブ、スタジオミュージシャンとしてCM・ドラマなど幅広いジャンルで活躍。94年よりソウルを始め東南アジアにも活動の範囲を広げる。97年には、ジャズと邦楽を融合させたCD「中村喜春&小唄メッセジャーズ」をプロデュース。98年にはクラウンレコードより『スケッチブック』をリリースし大きな話題を呼ぶ。2000年にはROLAND主催でプロデュースも兼ねた4都市ツアーや小野リサ全国ツアー、小柳ゆき、織田裕二、ゴンチチなどのレコーディング等で、アレンジャー・プロデューサーとしても高い評価を得た。年末には『FirstTake』がリリースされた。2001年には世界的なフルートの巨匠ハービーマンとの共演を実現させた『スケッチブック』をリリース。現在国内及びニューヨーク等のLIVEハウスで精力的な活動を続けている。

井上淑彦(ts,ss) 8/14(土)出演

中学のブラスバンドでクラリネット、大学入学時にテナーサクソを手にする。19歳からジャズライブハウス「新宿ビートイン」に出演するようになる。23歳の時、ニューヨークのジャズクラブ「ヴィレッジゲイト」にNY在住のアーティスト・音楽制作プロデューサー・中村照夫のグループ「ライジングサンバンド」に参加して出演。その模様は米FM局から全米生放送された。その時共演したサクソのポップ・ミュージックに多大な影響を受ける。その後、金井英人b、宮坂高史 ds、森山威男 ds、鈴木良雄 b、佐山雅弘 pf、加古隆 pf、丸山繁雄 vo、辛島文雄 p f s のグループで活動(グループ全てに共演レコード・CDがある)。他30枚以上のレコード・CDに参加。在籍17年の森山威男グループでは作曲も担当。1998年より自己のグループ「fuse・フューズ」を結成(田中眞正 pf、坂井紅介 b、つのだ健 ds)。アルバム「fuse'99」、「Grasshopper'03」、「Livefuse'07」をリリース。現在に至る。またもうひとつ自己のグループ「clepsydra・クリプシドラ」(佐藤芳明アコーディオン、林正樹 pf、仙道さおり per、06結成、近々CD発表予定)や久米雅之 ds / バンド(近々CD発表予定)で活動。他にソロ、デュオやセッションを田中眞正、林正樹、清水絵里子、森下遊(近々デュオCD発表予定)、中村真、渋谷毅、西山隆、海野雅威、南博(以上ピアノ)、森泰人b(スウェーデン在住)、田口崇治 g (彼のリーダーCD「ワン・フォー・セブン」'05にゲスト参加)etc. . . 行っている。また山岡未樹、溝口恵美子、北浪良佳、黒岩静枝(スージー)などのボーカリストとの共演も多い。海外でのコンサート・ツアーなどは、ヨーロッパ・ロシア・ニューヨークで複数行っている。



国貞雅子(vo) 8/14(土)出演

山口県下関生まれ。幼少の頃から音楽に興味を持ち、大学時代のソウルバンド、南アフリカのバンド「AZUMA」のコンサート運営をきっかけに独自のリズムとインプロビゼーションを特徴とするブラックミュージックに興味を持つようになる。大学卒業後、地元老舗JAZZライブハウス「ボルシェ」にて地元ミュージシャンとの共演を通してJAZZを学ぶ。歌唱方法としてゴスペル色が強く、その真髄を知る為にNYへ短期渡米。多くの地元ゴスペルシンガーを育てたグロリー・ホプキンスにゴスペル独特の発声法を学び、帰国。帰国後、活動拠点を山口県から東京都に遷し、都内、神奈川県を中心に活動中。Jazzだけにこだわらず、ソウル、ブルースに根ざす日本人離れした声量、歌唱力に特徴を持つ。現在はJazzのみではなく、独自のリーダーバンド「MATELLIYA」(マテリア)を結成し、オリジナルを中心とした活動も開始。形やジャンルにこだわらないメッセージ性の強い彼女の音楽に心を感じずにはいられない。音楽はスタイルじゃなく、あくまでも心構、生活、祈りに根ざしたものであるという信念から、自然の中にある普遍的な真理から何かを見いだそうとする彼女の音楽や詞(メッセージ)は多くの共感者を得つつある。



田辺義博(バンドネオン) 8/14(土)出演

日本大学法学部在学中、ヤマハ・ナム音楽院に入りジャズ・ギターを学ぶ。その後、アストル・ピアソラとオスバルド・ブグリエーセの音楽を知り、タンゴとバンドネオンに傾倒する。1989~91年にかけて2度(一時帰国)、通算約2年弱、アルゼンチンの首都ブエノス・アイレスに滞在。アルトゥーロ・ベノンとダニエル・ピネリに師事し、バンドネオンの基礎を学ぶ。2度目の滞在中には、ブグリエーセ自身の好意によって同楽団の練習への参加を許され、約9ヶ月間にわたって多くを学ぶ。現在は都内近郊でライブ活動するほか、バンドネオンの基本奏法の指導にもあたっている。



田辺義博(バンドネオン)